

# 人口、最大の27万人減

# 出生数も最少の100万人

都道府県別の人口 (2015年1月1日時点)		人口 (万人)	増減率 (%)
合計		12,616	▲0.21
東京都		1,288	0.57
神奈川県	京	144	0.32
千葉県	浦	718	0.13
茨城県	崎	895	0.12
福島県	知	730	0.11
新潟県	愛	614	0.02
長野県	千	506	▲0.01
岐阜県	福	140	▲0.01
愛知県	滋	231	▲0.10
三重県	宮	867	▲0.13
奈良県	大	253	▲0.27
和歌山県	阪	283	▲0.30
兵庫県	京	192	▲0.31
京都府	広	554	▲0.31
滋賀県	岡	115	▲0.33
福井県	石	197	▲0.37
富山県	橋	181	▲0.43
石川県	高	293	▲0.44
福井県	原	371	▲0.46
滋賀県	木	197	▲0.46
京都府	本	182	▲0.48
大阪府	城	100	▲0.49
兵庫県	岡	204	▲0.52
奈良県	木	138	▲0.53
和歌山県	馬	107	▲0.56
三重県	重	212	▲0.57
奈良県	川	196	▲0.57
京都府	馬	84	▲0.58
滋賀県	島	541	▲0.59
福井県	野	113	▲0.61
石川県	島	79	▲0.61
福井県	島	118	▲0.63
滋賀県	島	58	▲0.64
京都府	島	168	▲0.69
奈良県	島	84	▲0.73
和歌山県	島	142	▲0.75
三重県	島	77	▲0.75
奈良県	島	232	▲0.75
京都府	島	70	▲0.79
滋賀県	島	142	▲0.81
福井県	島	130	▲0.82
石川県	島	141	▲0.83
福井県	島	100	▲0.85
滋賀県	島	113	▲0.92
京都府	島	74	▲0.97
奈良県	島	135	▲1.07
和歌山県	島	105	▲1.27

総務省が1日発表した住民基本台帳（3面  
きょうのことば）に基づく1月1日時点の人口動態調査によると、国内の日本人の人口は1億2616万3576人で、前年比約27万人減った。年間減少幅は調査を始めた1968年以降で最大。出生数は79年の調査開始以来で最少の100万3554人だった。町村の9割で人口が減る一方、東京圏への一極集中がさらに進んだ。少子化対策と地方創生に向けた取り組みが一層求められる。

東京集中・高齢化が加速

# 化 1月時点、総務省調査

日本人の人口は6年連続減。出生数は前年に微増となつてはいたが再び減少に転じた。死者数は最多の127万311人。死者数から出生数を引いた自然減は26万6757人で、8年連続となつた。14歳以下の年少人口は1631万18人で人口に占める割合は12・93%。

一方で65歳以上の老年人口は3268万764人で25・9%となり、初めて年少人口の2倍を超えた。主な働き手となる15～64歳の生産年齢人口は7717万2787人で61・17%だった。

17、18歳は計239万人234人。2016年には18、19歳になる。選挙権年齢が18歳以上に下がる16年夏の参院選からこの約240万人が新た

な有権者として加わる。41道府県で人口が減少した。すべての町村のうち88%で人口が減った。市区は77%が減少した。

三大都市圏は東京圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）が0・27%増えただけで、名古屋圏（岐阜、愛知、三重）や、関西圏（京都、大阪、兵庫、奈良）は減った。東京圏の一極集中が顕著だ。

三大都市圏でも高齢化

は進んでいる。65歳以上の増加は東京圏31万3千人、名古屋圏9万8千人、関西圏16万7千人。三大都市圏で全国の増加分の半分以上を占めた。東京圏の増加率は3・93%と、全国平均の3・48%を上回る伸びだった。

住民登録している外国人の人口は2・97%増の206万2907人。外国人を含む総人口は1億2822万6483人。